

平成 30 年度  
事業報告書

社会福祉法人 千寿福社会

## 概 括

社会福祉法の一部改正に基づく法人組織改革では、新制度にもとづき役員等の体制を整え、法人の意思決定とけん制、事業執行体制を一層明確にしました。

また、組織のガバナンス強化及び透明性の向上のために会計監査人の導入準備をすすめ、本年度は予備調査を実施し、31年度（令和元年度）から本格導入を予定しています。

高齢・障害事業とも報酬改定の影響が懸念されましたが、各施設、事業所において事業活動各般にわたって点検と効率化をすすめ、大きな課題となるような事態は避けることができました。

少子・高齢化、人口減少は福祉ニーズの拡大要因でもある一方、こうした環境変化が事業の見直しや新たな展開を模索する課題であることが明確になりつつあります。従来事業の安定経営を確保すると同時に、事業種別・地域特性を活かした新規事業を企画・実施しました。

高齢・障害分野については、以下に述べる人材確保難も関連し、課題が山積しています。事業活動については、稼働・収支状況、職員の移動（離職、採用等）を不断にチェック、分析を行っています。

保育事業は、都市部の人口集中・増加地域で需要が拡大しており、関係自治体の保育政策との協調と、既設の保育事業との連動性も視野に事業を拡大しました。

人材確保については、新規・中途採用とも従来にも増して厳しい状況でした。とくに介護人材の確保は困難を極めています。このため、職員の処遇改善や離職理由の分析を行い、職員の定着促進に取り組んでいます。しかし、採用活動の取り組みに不十分な面があることも否めません。一層の計画的な取り組みを進めることが必要です。また、外国人雇用については、EPAによる導入を開始しました。職員宿舎などの受け皿整備を行い、受け入れと定着支援を進めています。また、在留資格「介護」や新たに導入される技能実習制度の活用などについても検討を進めます。

地域社会との関係では、地域包括ケアの推進が重視され、その主軸である高齢者の在宅生活の継続支援は勿論のこと、”地域共生社会“をキーワードにした分野を横断した地域生活支援の体系が求められ、高齢分野にとどまらず児童・障害をはじめ、すべての地域生活者に対する福祉的サポートシステムの”代名詞“となりつつあります。法人では、こうした方向性に対して現有事業での貢献は勿論、地域支援や制度に馴染まない事業・活動の実施や参画を進め、地元自治体や地域社会との協力・協働を進めました。

法人事業の拡大、多角化がすすむ中で、ともすれば日常の職務に忙殺され、職員に法人の事業目的や職務の意義、役割を浸透する機会が不十分な状況がうかがえるため、対策の一環として、法人の「理念」「マインド」「職務行動指針」を拠点担当理事、管理者で検討を進めています。法人設立40周年となる新年度の早い時期に素案を発表し、各拠点・事業所ごとでの討議をすすめ再構築と浸透を目指します。

今年度は各地で災害が多発し、法人内の施設でも一部被害が発生し、職員の住宅も被災する事態が発生しました。今後も豪雨・台風・地震などの発生が懸念され、災害への備えを一層具体化することが求められるため「事業継続計画（BCP）」の策定を提案し、具体化を目指しました。引き続き、各拠点・施設での確立を目指します。

## 実施事業概要

1. 障がい者支援施設  
みすず荘  
吉備高原清和荘  
さやかなる苑
2. 特別養護老人ホーム  
ロマンシティあいだ
3. 軽費老人ホーム  
ケアハウスA I D A  
ケアハウス百壽
4. 生活介護事業  
みすず荘  
吉備高原清和荘  
さやかなる苑  
神南備園
5. 短期入所事業  
みすず荘  
吉備高原清和荘  
さやかなる苑
6. 共同生活援助事業  
姫山の里、瓜生原、よりそい津山口  
そうじゃ晴々
7. 老人短期入所事業  
ロマンシティあいだ
8. 老人デイサービス事業  
デイサービスセンターやなはら  
デイサービスセンターふれあい  
デイサービスセンター湯郷
9. 認知症対応共同生活介護事業  
グループホームほほえみ  
グループホーム百  
グループホームみすず  
グループホーム清和  
グループホーム湯郷
10. 老人居宅介護事業  
ヘルパーステーションあいあい
11. 就労継続支援（B型）事業所  
ホワイト
12. 保育所  
宝塚COCORO保育園  
琵琶COCORO保育園  
琵琶COCORO保育園まや分園
13. 幼保連携型認定こども園  
高羽COCORO
14. 一時預かり事業  
高羽OCOCRO  
宝塚COCORO保育園
15. 小規模保育事業  
保育ルーム ちいさなCOCORO  
保育ルーム 琵琶ちいさなCOCORO  
保育ルーム 宝塚ちいさなCOCORO  
保育ルーム まやちいさなCOCORO
16. 放課後児童クラブ  
こころんクラブ中山寺

	こころんクラブ山本
	こころんクラブ長尾南
	こころんクラブ長尾
17. 障害者相談支援事業	神南備園 相談支援事業所清和
18. 障害児相談支援事業	神南備園 相談支援事業所清和
19. 放課後等デイサービス事業 ・児童発達支援事業	こころんクラブ高羽

## 事業実施状況総括

### みすず拠点

#### 【みすず荘】

- 入浴回数の増加に努めます。ただし、入浴日の設定は行事参加と合わせて配慮します。  
→入浴は、清潔保持や気持ち良さを得られるご利用者の楽しみのひとつです。入浴回数の増加に関しては、ご利用者の価値観、職員体制、ハード面等、更なる整備が必要であり、今年度についても入浴回数の増加はできませんでした。しかし、週3回の入浴日があることで、受診や行事等により入浴ができなかった方はおられませんでした。通所生活介護のご利用者については、ご本人の体調やご家族の希望、利用される曜日に応じての入浴実施を継続しています。
- 障害者虐待、身体拘束廃止の研鑽を深め、防止対策等に積極的に取り組みます。  
→身体拘束廃止に向けて、ご利用者の身体状況を考慮しながらのモニタリング、関係書類の整備を行いました。障害者虐待や権利擁護に関しては、虐待防止委員会を中心に取り組み、職員会議、生活支援員会議等での報告等、施設全体での取り組みを継続しています。今後も研修への参加、職員への周知徹底、定期的な委員会の開催等を実施しながら、虐待防止や権利擁護の重要性の認識と具体的実践に努めていきます。
- 安心、安全なサービスの提供のために、介護事故等に関する全職員の意識を高め、リスクマネジメント体制の点検、構築を行います。  
→ヒヤリハット報告書を全部署回覧とし、起こりうる事故等について職員全体で共有しています。毎朝のKY目標の周知や、サービスを提供する上で発生するリスクも記載した業務手順書の活用を通して、職員の事故防止に関する意識の高揚に努めました。ご利用者に安心、安全なサービスが提供できるよう、今後もリスクマネジメント体制作りを進めていきます。
- 当施設が地域の福祉拠点であり、自然災害時における指定福祉避難所であることを認識し、その役割等の理解を深めます。また、自然災害時等の対応を明確にすると共に、必要物資や器材の確保、点検等を行います。  
→救急蘇生法の講習では、その手順やAEDの使用方法等の理解を深め、防災訓練では火災発生時の対応の実践を行いました。BCPの作成を進めており、作成後は非常災害時における対応や必要物資やその確保等について周知していきます。
- 支援態勢を整え、より多くのご利用者に通所利用をしていただき、地域で生活する障害のある

方々を支援します。

→相談支援事業所との連携による通所ご利用者のサービス利用支援はもとより、医療行為が必要なご利用者については、看護師との連携により可能な範囲での対応を継続しています。今後もご利用者の特性に応じた支援の実施や多様なニーズの把握を行い、安心してサービス利用ができる環境作りに努めていきます。

6. 地域交流の機会を増やします。企画、実施にあたっては、地域のボランティア団体や福祉機関、各種福祉活動をされている方々との連携、地域や近隣施設等への広報も行います。地域にある福祉施設としての役割を果たし、交流場所となる施設を目指します。

→例年の各種クラブ活動、ボランティアや慰問の受け入れにより、ご利用者に楽しんでいただくことができました。また、近隣の障害福祉事業所と合同で行うスポーツ大会への参加、作品展への出展等、今年度もご利用者が地域の方々と関わる機会を設けることができました。

#### 【ホワイト】

##### 1. 清水基金補助について

平成29年7月より清水基金の補助申請を行い受理されました。平成30年7月に就労支援の生産活動に使用される物品としてシーツなどを伸ばしアイロンがかけられるシーツローラーを津山医研株式会社より購入しました。物品の購入にあたっての費用税別3,240,000円の内金額2,200,000円を清水基金より助成金の交付を受けました。清水基金の助成により、老朽化していた機器が一新され、作業効率の大幅な向上となりました。

##### 2. ホワイト事務所・休憩所について

ご利用者が増加と生産活動の受注拡大により、作業場の拡張が必要となり、既存の休憩スペースを活動領域とするために新たな休憩室と事務所の設置を行いました。入札の結果、タカラ産業株式会社が、税別7,370,000円で落札し契約となりました。完成引き渡しは平成31年4月となりました。

##### 3. 平均工賃月額について

ご利用者の目標工賃（平均工賃月額）が平成29年度は24,164円であったが、今年度は25,091円（平均工賃月額）になりました。当初の目標工賃としていた25,000円を上回り達成することができました。根幹となるクリーニング事業の好調もあるが、その他の事業（清掃、環境整備、内職）収益の増加も要因でした。

#### 【神南備園】

##### 1. 稼働率の向上について

生活介護の定員20名の内平成30年度の1日平均稼働率実績は12.3人で前年度の11.7人比べ0.6人平均1日稼働率の増加がみられます。目標値14人にあと一步の状態に近づきました。又、日中一時支援の30年度1日平均稼働率は1.1人であり前年度1.6人と比べ0.5人の減少でした。当年度より生活介護はサービス提供時間の延長をしており、顧客ニーズと合ったのか顧客の増加、経営の安定に繋がりました。

##### 2. 津山市指定管理について

平成27年度から平成29年度の間、津山市より指定管理を当法人が受け運営を行いました。平成29年度までの指定管理の実績を評価され、引き続き当法人が平成30年度から平成35年度ま

での指定管理の委託をされました。又、平成30年度より指定管理の協議書内容の変更があり、津山市の所有する倉庫を神南備園の2棟として改装を行い、地域貢献のための場所として、フラットカフェやこけない体操等を行い地域住民へ無料提供を行いました。

### 3. 社会福祉施設等避難行動タイムライン作成モデル事業について

神南備園は岡山県が土砂災害警戒区域に指定された場所に設置されています。水防法・土砂災害防止法が平成29年6月19日に改定され、土砂災害警戒区域の要配慮者利用施設は避難確保計画の作成や避難訓練の実施が義務となりました。その避難確保計画の作成を岡山県保健福祉課の協力依頼を受けモデル事業として、派遣されたアドバイザーと協働し計画・タイムラインを作成しました。

### 4. 共生型通所介護の事業開始

新たな事業として、共生型通所介護事業の開始を平成30年4月1日より開始。障害福祉サービスを使われていた障害者の方が介護保険の対象となっても継続して通所介護を利用可能な事業(障害の定員20人未満で受入可能)であるが、事業自体の認知も乏しく現在の所、対象利用者はありません。

#### 【相談支援事業所 神南備園】

#### 1. 各種関係機関との調整

ご利用者の多種多様なニーズに応じ各事業所とのサービスの調整、担当者会議、病院でのカンファレンス、希望される事業所の見学に同行するなど、関係機関やご利用者の調整を求められ機会が増加しました。

#### 2. 津山市の実施指導

津山市より、実施指導を受け個人情報の取り扱いや新規契約までの運びにおいて、一部指摘を受けました。ご指摘のことを改善しさらなる注意を払って事業の運営に至りました。

#### 【姫山の里】

#### 1. 外部サービス型から介護サービス包括型への移行

平成30年10月1日より、事業所の指定共同生活援助の型を外部サービス型から介護サービス包括型へ変更申請を提出し受理されました。以前の外部型は障害程度区分に関係なく、一律の基本単価であったが、介護サービス包括型に変更したことにより、障害程度区分に応じた基本単価が給付されることとなりました。又、障害程度区分に応じた生活支援員の配置も必要となり現在は世話人と生活支援員の兼務配置を行っています。共同生活援助のサービスの型を変更するに至った背景は、徐々に入居者の方も高齢化し、又、障害程度(精神)の重度の方がご利用希望されるようになったことが理由であります。

#### 2. 医療連携体制の強化

看護師の嘱託契約を6月より施行しました。今までの神経内科の受診だけではなく、週に一度の看護師の巡回により医療の連携体制の強化となりました。それに伴い、医療連携体制加算の申請も行いました。

#### 3. 更新申請

5年に一度の更新申請が同年度にあたり、更新申請の手続きを施行しました。

#### 【グループホームみすず】

## 1. 医療との連携

日々の健康管理を行い、医療との連携を適切に行いました。毎日の食事・水分摂取量や排泄状態、バイタルサイン計測結果などを記録しその記録をかかりつけ医や訪問看護師に情報提供できた。また健康状態に異常が見られた場合は速やかにかかりつけ医に連絡するなど、医療との連携を適切に行えました。入退院に関しては、関係医療機関に適切に情報提供を行い、事前に必要機関との話し合いも行う事が出来ました。

## 2. 職員研修

施設内・職員会議等で多岐に渡り、研修を行うことが出来ました。今年度は、施設外の研修には、参加出来ませんでした。

## 3. 虐待、不適切ケア、身体拘束防止

虐待防止に関する研修会を行い、絶対に虐待を行わないように周知徹底を図りました。不適切ケアに関しても職員会議等で話し合い、理解を深めました。身体拘束に関しては、年2回勉強会を行い、また身体拘束適正化委員会を設置し、月に1回は話し合いを持ち、検討しました。

## 4. 災害対策

災害時発生時の対応について、勉強会を行いました。災害発生時の避難訓練を1回行いました。

### 【グループホーム湯郷】

1. 認知症介護のプロとして、認知症に関する知識と技術を深めます。

職員会議において2ヶ月に一度、資料を参考に研修を行いました。認知症に関しては10月と12月に行いました。

2. 「利用者主体」、「自立支援」に基づいた介護計画作成および介護業務の運営体制を目指します。

介護計画作成時には、ご利用者本人とご家族のご要望を伺い、それに基づいた計画作成に努めました。日常生活の中で、ご自分でできることを積極的にしていただくことと、散歩、体操を毎日実施することを重点的に行いました。

3. 空床期間の減少に努め、年間稼働率96%を目指します。

年間稼働率は94.7%でした。9月から1月までは稼働率96%以上を達成出来ました。入院と退所後の空床期間があった月の稼働率が目標達成出来ていませんでした。

4. 大規模自然災害への対策を見直し、訓練体制及び平素の備えを整えます。

職員会議において、大規模災害時における対応について職員と話し合いました。また、非常災害時の蓄えとして、3日分の食事と水を備蓄しました。

### 【デイサービスセンター湯郷】

1. ご利用者のADLの変化に対応した適切な介護サービスの実施に努めるため、介護技術の研鑽をします。また、様々な疾患に対応したケアができるよう勉強会等を行います。

職員会議内で、個々の利用者に対しての接し方、対応、介助の方法など話し合いを行っています。障がい、疾患に対しての勉強も会議内で行っています。

2. 重点項目・作業手順を記載したマニュアルを作成し、サービスの質の確保・向上、均等化を行えるようにしていきます。

マニュアル作成は実施出来ていません。

3. 入浴設備の整備を検討し、ご利用者が安心・安全に入浴していただだけ、転倒・事故のリスクを軽減できるよう計画していきます。

入浴設備の整備は出来ませんでしたが、浴室内の壁のタイル落下防止のため壁の張替えを一部行いました。

#### 4. 基準該当障害福祉サービスの営業・広報活動

自立支援協議会へ参加し、相談支援事業所へ活動報告、広報活動等行っています。

#### せいわ拠点

##### 【吉備高原清和荘】

##### 1. 職員のスキルアップ

寮母会議等に勉強会を実施しました。

また、研修委員を中心に3種類の施設内研修を実施しました。

##### 2. 生活支援員による喀痰吸引等の実施

喀痰吸引等基礎研修に職員を参加させ、清和荘内において喀痰吸引等実地研修を行いました。

平成30年3月より、同法人のみすず荘での喀痰吸引等実地研修に職員を派遣しました。

(清和荘ではできない気管カニューレの実地研修を行う為)8名の職員が実地研修を終了しました。

##### 3. 地域との交流

清和祭のチラシを、町内に新聞折り込みで配布しました。たくさんの地域の方に来ていただきました。清和荘の駐車場が満車になると近くのバスセンターまで送迎車を出しました。

##### 【相談支援事業所清和】

地域で信頼されるために、計画相談支援を丁寧に行ってきました。上記の重点目標を意識し、新規の計画相談支援、もしくは更新を行いました。

計画作成当事業所立ち上げ時点で、他事業書による吉備中央町の計画相談支援の充足率は9割を超えていました。そのため新規ご利用者が増えない状況でした。しかし、平成30年度から徐々に計画相談支援の依頼が増えてきています。件数は以下の通りとなります。

	平成28年	平成29年	平成30年
新規・更新	33件	55件	96件
モニタリング	23件	75件	32件

今年度は、他事業所からの依頼に伴う新規相談支援件数が増加しました。

相談支援事業所清和における相談支援専門員1人体制であり、障がい者支援施設吉備高原清和荘の生活支援員との兼務で行っています。立ち上げ当初は、相談支援日は週に2日のみでした。平成29年度は週3日に相談日を増やしました。今年度は新規の相談支援件数の増加対応するため、週4日に相談日を増やしました。

ご利用者の計画相談支援を通じて、地域にある社会資源との連携を深めることができました。当事業所とサービス提供先事業所で連絡調整を積極的に行いました。

##### 【グループホーム清和】

##### 1. 職員のスキルアップ

ご利用者に対しより良い環境となれるよう職員の質、接遇の向上を目指しました。全ての職員が各自研修を受ける機会をつくり、それを職場に持ち帰り復命を行うことで、情報を共有しスキルア

ップに努めました。

## 2. ご家族との交流

施設とご家族が一体となってご利用者を支えることが出来るよう関係作りに努めました。

本年度は例年の家族交流会に加え夕涼み会を企画し、ご家族に運営の協力をお願いし一緒に行いました。来年度も各行事、ご家族への参加を呼びかけ運営を通して良好な協力関係の構築に努めます。

### 【そうじゃ晴々】

#### 1. 新規事業への開設、準備

平成30年6月までにグループホーム星の開設に伴い、備品の購入、設置、県民局への書類申請、職員の採用、ご利用者の入居契約をしました。又、平成31年2月にグループホーム月の開設に伴い、備品の購入、設置、職員の採用、県民局への書類申請、入居予約をしました。随時、見学対応しながら、総社東部の新しい施設として地域、社会情報を売り込みました。令和元年5月アクティビティハウス空の開設に向けて、工事調整、希望者への情報提供、備品の購入予定、県民局への書類申請、職員の採用を行いました。

#### 2. ご利用者への日中福祉サービスの充実

介護サービス包括型のグループホームでは、平日の夜間、休日サービスは対応していますが、日中はサービスが含まれていません。グループホームを利用すると同時に、日中の福祉サービスが必要となってきます。今回、拠点でもある吉備高原清和荘の生活介護と連携しながら、日中のサービスの確保をしました。令和元年からアクティビティハウス空の生活介護と就労支援B型の福祉サービスを選択できるように調整しています。

## さやか拠点

### 【さやかなる苑】

1. 平成30年度の障害福祉サービス等の報酬改定にあたり、重要事項説明書の整備を行い、ご利用者やご家族にわかりやすく説明をします。

→平成30年4月1日より介護報酬単価が改正され、ご利用者の負担金等の変更がありました。

それに伴いご利用者・ご家族への説明をする機会を設けました。

2. BCP（事業継続計画）の再検討・見直しをすると共に、職員に周知徹底を図ります。またBCPを基に災害対応研修を引き続き行います。

→BCPの再検討・見直しのため、事業所間で集まり研修会を開催しました。内容の整備等の課題もあり、職員への周知までは図れなかったため引き続き検討していきます。

3. 防犯カメラや赤外線感知センサー等の防犯設備設置にあたり、施設内の防犯強化を行います。また、防犯設備と連動した防犯対策訓練を行います。

→防犯カメラや感知センサーを設置したことにより、外部の方の出入り等状況がわかりやすくなりました。また、職員への防犯に対する意識づけにもなりました。

4. 各居室のナースコールが劣化し、度々故障がみられるため新しく購入を行います。また、パソコン等と連動したシステムを導入することで様々な変化に対応でき、ご利用者に快適な居住環境の整備をします。

→全居室のナースコール交換及びPHSをスマホに替えました。施設内の固定電話も多機能電話

機に交換を行いました。コールボタンも押しやすくなり、また、スマホや多機能電話にすることにより画面表示で特定の利用者等分かりやすくなったため業務が円滑にできています。今後は見守りシステムや記録システム等導入を行い、更なる業務の効率化を図ります。

5. 救命技能の維持向上を図るために、津山圏域消防組合が行う普通救命講習を順次受講します。

→16名の職員が普通救命講習を受けました。今後も定期的に講習に参加し、技術の向上を図ります。

6. 喀痰吸引研修を受講し、認定特定行為業務従事者の資格を取得し、施設内での医療的ケアの充実を図れるようにします。

→喀痰吸引等研修に2名が参加し受講しました。順次実地研修を行い、認定特定行為業務従事者の資格取得に繋がります。

7. 地域の行事を始め、社会福祉協議会等各種団体が行うイベントに参加や出展を行い、地域の一員としてより深い交流をしていきます。

→地域の小学校の運動会を始め、障がい者本人の主張大会等地域のイベントに参加しました。町社協が主催する創作活動等のイベントには出展ができていないので、今年度は積極的に参加していきます。

8. ご利用者にとっては2年に1度の居室替えと担当職員の変更の年になります。新たな環境の下、一人ひとりに合ったサービスの提供を行います。また、さやかなる苑が開設20周年を迎えるにあたり、ご利用者と喜びを分かち合えるような行事を企画します。

→ご利用者の希望を尊重しながら居室替え等行いました。居室替えを行うことで、ご利用者同士の交流の機会にもなりました。開設20周年イベントでは、吉本芸人を依頼し、地域の方にも参加していただき、盛大なイベントが行えました。

9. [医務] 健康管理を行い疾病予防に努めるため、定期的な検診を行うことで異常の早期発見を行い受診対応など行いながら悪化防止に努めます。

→定期的な検診で異常のあったご利用者に対しては、医師の指示により受診対応することで悪化防止に努めることができました。

10. [リハビリ] 日々の生活の中でご利用者の体調の変化に早期に気付ける関係を築けるよう努めます。

→ご利用者の声を傾聴しDr.への相談、対応する事により、ご利用者とのより親密な距離を形成する事が出来ました。

11. [調理] 町の配食サービス事業に参加し、より地域と連携した配食サービス事業を行うよう努めます。

→美咲町社会福祉協議会が運営する生活支援サポーターの協力を得て、美咲町の配食サービスを受託し実行しています。

12. [通所生活介護] 運営理念に沿って会議を行います。月に1回職員会議を開きます。意見を出しやすい雰囲気、業務改善・見直しを行い効率化を目指します。

→月に一度、職員会議を実施することができ、業務改善に繋がりました。

13. [通所生活介護] 月に2回、ご利用者のケース検討会議を開き「出来ないこと」ではなく「出来ること」を増やせる支援計画の作成に努めます。

→きちんと会議の時間をとるが出来ず不十分だったので次年度は充実できるように努めていきたい。

14. [通所生活介護] ご利用者が楽しめるように行事計画を立て、レクリエーションの充実を図ります。

→月に一度はご利用者が楽しめるように季節の行事を取り入れ、充実した行事（レク）を行う事が出来ました。

#### 【グループホーム百】

##### 1. 個別支援

→個別支援に重点を置き「今、この時を大切に」多くの笑顔を見られるよう、お一人お一人の趣味や生活歴をより深く掘り下げた支援に努めました。又、地域への個別外出にも少しずつ取り組みました。

##### 2. NMスケール導入

→日常生活における行動を観察し、知的機能障害の重症度、精神状態を評価するNMスケール導入し、より深く認知症について理解し、アセスメント・ケアプランに反映する事ができました。

##### 3. 安定した経営

→安定した経営を行う為に待機者名簿整理、法人内施設との連絡調整、居宅事業所、医療機関を訪問するなど連携を強化し年間稼働率の安定に努めました。

##### 4. 施設内研修

→声掛け、言葉使いを含む身体拘束・虐待防止・権利擁護の研修を施設内外を問わず2ヶ月ごと積極的に取り込み、安心、安全、安らぎのある施設を目指せるよう努めました。

#### 【デイサービスセンターやなはら】

1. ビジョンの実現にむけて月に一度職員会議を開催し、ご利用者の十分な支援ができる「できない」ではなく「どうしたらできるか」見直し・検討をします。

→月に一度職員会議を開催しました。また、申し送り時には、ご利用者の「どうしたらできるか」意見を出し合い検討する事ができました。

2. ご利用者が安心して住み慣れた自宅や、地域でその人らしい自立した生活を継続できるようご家庭での様子など、ご家族とも連絡を密にするとともに、担当介護支援専門員、居宅事業所や地域包括支援センターなどとの連携を強化していきます。

→認知症のご利用者も増えています。連絡ノートの活用のみならず、デイでの様子や気づきなど直接ご家族にお伝えすることで、ご家族からも気になられていることや困っていることなどの相談が増えています。また、担当介護支援専門員へ利用者の状況を報告し、ご家族、利用者が困られている課題については他事業所とも連携し、他事業所の会議に出席し課題解決に向けて取り組みました。

3. ご利用者のご利用日を楽しみでき、職員の意欲向上を図るために行事計画やレクリエーション計画を明確に室内に掲示します。

→行事やレクリエーションなどを室内に掲示し、行事の曜日ごとにお知らせを配布しました。

また、デイサービスカレンダーを作成し、年間の営業日、休業日がわかりやすくなったと喜ばれています。

4. 地域のハザード情報を理解し、施設で起こりうる災害に備えBCP（事業継続計画）を作成します。また、ハザード情報を基に災害時対応訓練を行い災害マニュアルを確立します。

→BCPの再検討・見直しのための事業所間の研修会に参加しました。内容の整備等の課題もあり、職員への周知まで図れなかつたので引き続き事業所間の研修会に参加し検討していきます。

#### 【ケアハウス百壽】

1. 「個別機能訓練」に取り組み、ご利用者の介護度進行予防に尽くします。

ご利用者の残存機能を維持出来るよう、生活動作を考慮し自立に繋がる支援が出来るよう計画作成し実行します。日常生活を有意義に、楽しく送れるよう、職員が協力し業務に専念します。

→平成30年4月より職員（看護師）を配置し「個別機能訓練加算」を取得していました。しかし、看護師の退職により、加算取得の継続が不可能となりました。運動活動の日課として、午前中に一時間ビデオを利用した体操の時間を取り、ご利用者の健康に留意しています。

2. 施設内でのレクリエーションや余暇活動には創意工夫を行っていますが、より満足頂ける、ご利用者の生きがいの場所と時間を提供するための取り組みを行います。その為の一つとして、屋外に車椅子などでも作業が出来る花壇を作成します。

→介護職員の役割分担を行い、レクリエーション担当職員を配置する事により、提供する内容の幅を広げました。花壇の作成が出来ませんでした。次年度に実施したいと思います。

3. 各委員会の充実を図り、ご利用者にサービスの向上として返すことを目標とします。研修内容の充実（勉強会の開催やスタッフのスキルアップ）を図ります。

→各委員会構成メンバー個々のやる気を高めるよう、職員会議内で話し合いを実施し、日々の職員との関わりの中でも常に委員会活動の大切さをお伝えしてきました。

#### あいだ拠点

##### 【ロマンシティあいだ】

1. [介護] 日頃からご利用者の心身の状態を把握するとともに、危険を予測できるよう技術の向上に努めることによって、未然に防げるであろう事故はきちんと防ぐよう努め、また、個人の生活における防げない事故においては重大な事故に繋がらないように環境整備や業務改善等の取組みに努めます。

→日頃のご利用者の心身の状態を把握し、各種研修等を行い、生活の中にある危険の考察や介護方法の見直し、環境整備等に努めたことにより、今年度は骨折等の重大事故は起こりませんでした。また、職員は継続的な取組みにより、事故の未然防止に積極的に考えることが出来るようになりました。

2. [看護] 経験による冷静な判断・指示、異常の早期発見・対応に努めます。

→ご利用者の発熱、訴えなど状態把握に努め、異常の早期発見及び対応したことにより、重症化を防ぐことができました。

3. [看護] 主治医と連携を図り、医師の指示の下、施設内での医療の実現に努めます。

→ご利用者の異常の早期発見、主治医との連携を図り、指示の下、内服薬の投与、早急な病院対応をすることができました。

4. [看護] 各種研修会に積極的に参加し、知識を深め、情報の共有に努めます。

→研修会に積極的に参加することができましたが、職員間での伝達・情報の共有が不十分でした。

5. [栄養] 適正な栄養量が摂取できるよう栄養ケアマネジメントを通して、できる限りの個別対応を行い、現在の健康状態が維持または改善できるように努めます。

→毎月、栄養カンファレンスを開催し、ご利用者の食事摂取量、体重変化を細かく把握し、日頃から個別に観察することにより食事形態の変更や嫌いなものはできる限り代替品を使用するなど摂取量の維持・向上に努めました。また、入院により褥瘡が発生した方や、摂取量の少ない方には、高カロリーゼリーやヨーグルトの追加提供等を行った結果、体重の維持、褥瘡の改善にも効果が見られました。

#### 【デイサービスセンターふれあい】

1. 災害に関する情報に留意して、適切に対応できるように努めます。

→美作市防災情報と岡山県防災情報に登録し、携帯メールやテレビ等による大雨や大雪等に関する情報収集に努め、必要に応じて送迎の時間等の変更を検討・実施しました。

2. 送迎時には、ご家族との情報共有や連絡簿等を通して利用者の日々の健康状態の一体的把握に努め、異変の早期対応に努めます。

→連絡簿の活用と送迎時や電話連絡により、サービス提供中の様子や状況を伝えると共に、家庭での様子等の情報を収集し、ご家族と職員で日々の健康状態の把握に努めました。

3. ADL 等の現状維持を図るため、リハビリ体操の継続と個々に応じた必要な機能訓練を支援します。

→ゴムバンドを活用した上下肢運度や DVD を見ながらの体操、タオルや棒を利用した体操、歩行訓練、季節に応じたプログラム、残存機能を活用したおやつ作りを実施しました。

#### 【グループホームほほえみ】

1. ご利用者の立場にたったの声掛け、関わりを行います。

→ご利用者と話しをする時は、目線を合わせ笑顔で話しをすることを特に心がけました。多くのご利用者から「うれしかった」「ありがとう」という言葉が今まで以上に聞かれるようになり、スタッフも心豊かな気持ちになったと同時に、これを継続していくようにと気持ちを新たにしました。

2. 地域との関わりを大切にし、ふれあいの場を持ちます。

→ご利用者の重度化により、なかなか戸外や地域に出向いていくことが難しい状況にあるため、外部からのボランティアや実習などを受入れ、ご利用者の笑顔が多く見られる空間作りに努力しました。

#### 【ヘルパーステーションあいあい】

1. 感染症・食中毒の感染予防及び蔓延防止。

- ・インフルエンザ等の流行期には、マスクの着用・うがい・手洗いの励行をします。
- ・調理の際は、手洗い・食品管理を行います。
- ・感染源とならないための知識の習得と、未然防止・蔓延防止に努めます。

→今年度は、ご利用者も職員もインフルエンザ感染はありませんでした。ヘルパー会議にて流行期以前に感染防止と体調管理について講習し、マスク着用を励行しました。

食中毒については、各家庭の食材の保存が適切に行えるように、必要に応じてご利用者の承諾を得た上で処分させていただく等の対応をしました。

## 2. 在宅生活の継続への支援

- ・職員の質と技術の向上を行い、在宅での生活が一日でも継続できるように支援します。
- ・各種研修を通して、職員の質と技術の向上に努めます。

→ヘルパー会議において、施設内外の研修に参加した内容を復命し情報の共有に努めました。

糖尿病や低栄養予防のための研修に参加した職員による、ご利用者の症状に応じた調理実習を行ったり、6月には夏野菜を使ったおかず作りの調理実習に取り組みました。

## 3. それぞれのご利用者に応じたサービスの統一と継続

- ・報告、連絡、相談を密に行い、職員間の情報共有に努めます。

→ヘルパー会議において、各々の職員が同一のサービスを提要できるように検討しました。訪問時に生じたトラブルやサービスの変更、注意事項等を、事業所に常設した連絡ノートに記入し相互に確認・連絡することで、サービスが円滑に行えるように努めました。

サービス提供時のミスやトラブル等は、速やかに対応することで、その後のサービス提供に支障のないように努めました。ケアマネジャーと連絡を密に取り、サービスの安定に努めました。

### 【ケアハウスAIDA】

#### 1. インフルエンザ等の感染症の発生予防・蔓延防止に努めます。

- ・手洗い、うがいの励行を声掛けやポスターの掲示によって、注意喚起します。
- ・感染症の知識を習得し、発生時には速やかに対応します。

→インフルエンザ等感染症予防のポスター掲示や、書面を配布し注意喚起を行いました。

医師へ最新の予防対策を聞き、知識の習得・実践に生かしました。今年度はインフルエンザの感染者はありませんでした。

#### 2. ご利用者の心身の変化に対して早期発見、早期対応ができるように努めます。

- ・ご利用者のいつもと違うという異変を早期発見できるように、日常の観察を行います。
- ・異変を発見した際は、症状によって医師へ報告し対応します。

→日常会話の中で、睡眠・食欲・排尿・排便・心配事等の聞き取りを行いました。

心身の不安の声があった場合は、医師へ報告・連絡・相談し、医師からの答えや指示を伝えたり、受診することにより不安を取り除いたり、最小限にすることができました。

### 【居宅介護支援センター英田】

#### 1. ご利用者の入院時には早急に医療機関へ入院前の生活状況を情報提供することに努め、退院後の生活をイメージした退院支援が行えるよう医療機関との連携を図っていきます。

→入院時、早急な情報提供に努めたがF a x で提供することが多くなった。情報がすぐに伝わる手段にはなったが、面談で行う方がより細かい情報を伝えることができ、今後の連携にも良いと感じました。

#### 2. それぞれの医療機関では、役割や機能に違いがあるため、病院ごとのルールを理解し医療従事者との関わりを密にし、介護と医療の連携に努めます。

→入退院支援ブックの活用により医療機関との連携がスムーズに行え、病院ごとのルールを理解し連携に努めることができました。

兵庫県内（保育事業等）

**【高羽COCORO保育園】**

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。

地域や社会との関わりを大切にし、また、園の設備や機能についても安全対策の強化や日々の点検と衛生面に配慮した環境作りについて強化・改善することが出来ました。

**【宝塚COCORO保育園】**

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については、年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。特に、保護者の方とのコミュニケーションを大切に、クラス懇談や子育て講演会を実施しました。また、園の設備や機能についても安全対策の強化・改善をすることができました。

小規模保育園宝塚ちいさなCOCOROと交流事業を実施しました。

今後は宝塚市の待機児の増加に伴い、保育の必要な方のご希望に、応えていける取り組みが必要です。

**【琵琶COCORO保育園・琵琶COCORO保育園まや分園】**

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から5歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。

保育の充実や保護者のニーズの把握、地域の特性の把握などについては重点的に取り組み、地域との関係も円滑に進めました。また、園の設備や機能についても安全対策の強化・改善することが出来ました。

**【ちいさなCOCORO】**

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。とくに、家庭や地域との交流については重点的な取り組みを進めました。

また、園の設備や機能についても安全対策の強化や防災管理について強化・改善することが出来ました。ただし、個人差が大きい乳児期でもあるのでより一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。

**【宝塚ちいさなCOCORO】**

平成29年4月に開園し、1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。

**【琵琶ちいさなCOCORO】**

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。

ただし、個人差が大きい乳幼児期でもあるので、より一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。

開園初年度であるので、保育の充実や保護者のニーズの把握などについては重点的な取組を進めました。また、園の設備や機能についても安全対策の強化・改善することが出来ました。

#### 【まやちいさなCOCORO】

1年間、教育保育理念に基づき、業務を進めました。新しい児童の入園から2歳児の卒園まで一人ひとりの子どもと家族の思いを尊重し、安心できる保育環境を提供しました。

養護と教育については年度当初の計画通りほぼ順調に活動を行うことが出来ました。

ただし、個人差が大きい乳幼児期でもあるので、より一層のきめ細やかな保育の取り組みが必要です。

開園初年度であるので、保育の充実や保護者のニーズの把握などについては重点的な取組を進めました。また、園の設備や機能、災害への備えについても安全対策の強化・改善することが出来ました。

#### 【こころんクラブ高羽】

小集団での活動を念頭にした体制で療育に取り組みました。昨年同様、来所後にまず自由遊びの時間を設けて児童の思いを受け止め、やり取りを楽しめる様に活動を設定しました。

また、各児童の場面ごとでの得手不得手に対応できるように可能な限り1対1の療育体制を取れるように職員配置を行いました。

隣接する保育園に在園している児童については、日々の様子などその特性についても理解を深めやすく、また、保育園行事等が行われる際にはそちらを優先したりなど、柔軟に対応することができました。

#### 【こころんクラブ山本】

保護者が就労などの理由で、放課後、家庭にいない宝塚市内に在住する小学1年生から6年生の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支援しました。いろいろな学年の児童とも関わりを深めることができました。中山寺、長尾南、長尾、宝塚COCORO保育園の児童とも交流することができました。

#### 【こころんクラブ中山寺】

保護者が就労などの理由で、放課後、家庭にいない宝塚市内に在住する小学1年生から6年生の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支援しました。保育園の園庭やプールを利用して遊ぶことができました。山本、長尾南、長尾、宝塚COCORO保育園の児童とも交流することができました。

#### 【こころんクラブ長尾】

保護者が就労などの理由で、放課後、家庭にいない宝塚市内に在住する小学1年生から6年生の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支援しました。いろいろな学年の児童とも関わりを深めることができました。中山寺、山本、長尾南、宝塚COCORO保育園の児童とも交流することができました。

#### 【こころんクラブ長尾南】

保護者が就労などの理由で、放課後、家庭にいない宝塚市内に在住する小学1年生から6年生の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支援しました。いろいろな学年の児童とも関わりを深めることができました。中山寺、山本、長尾、宝塚COCORO保育園の児童とも交流することができました。

## 新規事業の状況

### 1. 開設事業

まやちいさなCOCORO開設（定員14人）（平成30年4月）

デイサービスセンターふれあい総合事業開始（平成30年4月）

ヘルパーステーションあいあい総合事業開始（平成30年4月）

デイサービスセンター湯郷総合事業開始（平成30年4月）

さやかなる苑共生型サービス開始（平成30年4月）

神南備園共生型サービス開始（平成30年4月）

そうじゃ晴々グループホーム星開設（定員7名）（平成30年6月）

そうじゃ晴々グループホーム月開設（定員7名）（平成31年2月）

### 2. 整備事業

ゆりのきCOCORO保育園開設予定（定員200人）（平成31年4月）

桜町ちいさなCOCORO開設予定（定員19人）（平成31年4月）

COCOROステーション開設予定（定員30人）（平成31年4月）

そうじゃ晴々アクティビティハウス空開設予定（令和元年5月）

多機能型事業所（生活介護定員10人、就労継続支援B型定員10人）

日中一時支援事業所（定員10人）

相談支援事業所（一般・特定・障害児）

太陽光発電事業（第3期）事業開始予定（順次、令和元年9月末まで）

みすず荘屋根、姫山の里前野立、そうじゃ晴々屋根

## 施設整備、大規模修繕等

1. みすず荘高架橋撤去及び、進入路拡張工事実施（平成30年9月）

2. そうじゃ晴々グループホーム月竣工（平成30年10月）

3. ロマンシティあいだ職員寮竣工（平成30年10月）

4. さやかなる苑ナースコール・電話等設置工事実施（平成31年2月）

5. ゆりのきCOCORO保育園竣工（平成31年2月）

6. 桜町ちいさなCOCORO及び、COCOROステーション竣工（平成31年2月）

7. そうじゃ晴々アクティビティハウス空竣工（平成31年3月）

8. そうじゃ晴々南側土地取得（平成31年3月）

## 収益事業の状況

1. 売電事業（太陽光発電事業）

設置場所：ケアハウス百壽（屋根）

グループホーム百（屋根）

デイサービスセンターやなはら（屋根・野立）

さやかなる苑（南側駐車場野立）

吉備高原清和荘（屋根）

グループホーム清和（屋根）

姫山の里（屋根）

みすず荘（野立）

### 職員研修の状況（法人共通）

1. 虐待防止の強化について
2. リスクマネジメントの強化について
3. 個人情報（特定個人情報を含む）取扱、漏えい防止について
4. コンプライアンスの遵守・強化について
5. 次世代育成研修（中堅職員研修）

### 理事会、評議員会等の開催状況

理事会	日時
第1回	平成30年4月12日
第2回	平成30年5月10日
第3回	平成30年5月24日
第4回	平成30年6月5日
第5回	平成30年6月21日
第6回	平成30年6月26日
第7回	平成30年7月13日
第8回	平成30年8月23日
第9回	平成30年9月20日
第10回	平成30年10月18日
第11回	平成30年12月6日
第12回	平成30年12月20日
第13回	平成31年1月17日
第14回	平成31年2月19日
第15回	平成31年3月12日

評議員会	日時
定時	平成30年6月21日
第2回	平成30年9月20日
第3回	平成30年12月20日
第4回	平成31年1月17日
第5回	平成31年3月21日

	日時
評議員選任解任委員会	
監事 監査	平成30年5月24日

